

## 泉区泉東地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 5 月)

当地区は泉区の北東部の丘陵地にあり、鶴が丘・歩坂町・松陵・山の寺・向陽台・明石南地区、6 地区・地域からなり、約 1,300 世帯、人口 36,000 人の住宅地です。民生委員・児童委員 37 名（うち主任児童委員 2 名）で運営しています。

東日本大震災から 3 年 1 か月経ちましたが、被災地の復興はまだまだと思われまます。仮設住宅に住んでいる方がたが大変な思いで生活されていることが日々報道されています。

平成 25 年 9 月 30 日、向陽台コミュニティ・センターにて、泉区保健福祉センター主催の被災者支えあいネットワーク事業「地域交流会」を開催しました。連合町内会長・地域包括支援センター所長・泉区社会福祉協議会事務局長等、関係者も参加をしていただきました。

当地区にも宮城県沿岸部の石巻市・東松島市・七ヶ浜町・渡波町、また福島県相馬市より多くの方が避難されていることがわかり、各地区より 31 名の招待者が集うことができました。

泉東地区の民生委員・児童委員は当日までの準備、会場設営をはじめ、招待者の送迎、お茶の用意、調理・配膳、講演者への依頼など心を合して大成功のうちに「地域交流会」を開催することができました。「デジタルホーンの演奏とマジック」「フォークダンスなどを披露し」楽しく開催することができ、最後に全員で"ふるさと"を合唱し、招待者をお送りし無事終了しました。

参加者からは、たいへん喜ばれ、「南相馬から避難して来た方に参加していただきました。こんなにさせていただいて本当にありがとうございました。楽しい一時を過ごす事ができました。」「今日は楽しかったね、またあるといいね、今度あったら誘ってね、と言われました。」



「各テーブルに飾られた花、心尽くしのおもてなしで良い雰囲気でした。クイズで盛り上がり楽しい会でした。」と参加された皆様はとても喜んでいました。

東日本大震災から 3 週間が経過したころ、石巻市の瓦礫の山と化した街並みに、「がんばろう!石巻」の看板が掲げられたことが報道されました。

「無力感に押しつぶされてたまるか!その"奮起の証し"を形にしたのが、あの看板でした。看板を作ることに、どんな意味があるのかわからない。

しかし……。不安、絶望、悲哀、無力感……。皆が、そんな思いと格闘している。



この看板で、誰かが少しでも元気になれば、それでいい。」看板にそんな願いをこめられながら作られたそうです。

平成 25 年 2 月 7 日仙台市福祉バス利用して、泉東地区民生委員・児童委員 29 名で石巻市内の被災地を訪ねました。



1 時間ほどで石巻市の駅前に到着すると、ボランティアの「語り部」の方（東松島市）がバスに乗り込んできました。その方自身、自宅の 1 階が津波で浸水した被災者でした。

バスは津波被害の大きかった沿岸部へ。「家はささ舟のように流され、ひっくり返った」「この一帯はすべて津波に流され、多くの方が亡くなられた」など、言葉を詰まらせながらお話されていました。参加者は、バスの窓の外に広がる被災した家々、膨大な瓦礫、津波に流された車などを見ながら、語り部の方の感極まり、涙ながらの説明に耳を傾けました。



しばらく行くと、日和大橋の近くの門脇小学校の所に、あの「がんばろう!石巻」の看板がありました。

街並みがすべて津波に流され瓦礫の山となり、今までは見えなかった遠くに海が見えるのです。被災された沿岸部の方がたは本当に大変な思いをされことを心に刻むことができました。



東日本大震災後に NHK で取材、放映された詩集「いのちの詩」(著書・中村博興)という一冊の本との出会いがありました。

被災地に 80 数回にわたりボランティアとして足を運び続けて、話を聞いたメモ書きは 400 枚といえます。「瓦礫の山をいくつも越えて大丈夫

か!って目を真っ赤にして友達が来てくれた。抱き合ってオイオイ泣いたよ」「土台だけ残しておらの家どこえ行ったべと立ち尽くしていると、「心配するなって、また家建ててやっからよ」って爺さんのどこにそんなお金あるべでもさ気持ちだけでもうれしいじゃないの」と、著者は『聴いてあげるだけで、みんな気が楽になるようでした。「言葉の力」をどう復興に活かしていくか怒りにしても、悲しみにしても結局は心の問題です。これからの「心の福光」が大事と思われます。』と語っていました。民生委員のも「一人の人のために、地域社会のために」活動しています。

「広げよう地域に根ざした思いやり」をテーマに、孤立・孤独をなくす運動、児童虐待から子どもを守り、日常の活動を活かし災害時の要援護者の安否確認など活動方針を胸に、「災害時一人も見逃さない」よう、日頃の活動を続けていこうと考えています。

「負けでたまっか!」「がんばっべし地域の一人のために」と決意しながら!